

安部の中唐 へた そん
 一あへ乃あつたあといひさるひといさるうーよあ
 まさく入あきき^のけさ けさ あねよのふんき
 ろよきけなよひと けさ あねよのふんき あねよのふんき
 一これめさうはけりあ あねよのふんき
 安倍仲丸ハ中務太補舟もれ子 元明天皇和銅元年生
 元正天皇法字靈龜二年八月遣唐使大伴山辺
 同如とく 入唐せりはてより
 一これいさ あねよのふんき
 あまきく姓名をあ 朝儀 唐帝
 こまを 官をすめり 秘書監
 あねよく 検校 一うつり 九補 一うつり

年いさ あねよのふんき 日奉 あねよのふんき
 天皇乃法とさ 法 二位 孝謙天皇の天
 平勝寶五年 又遣唐大使 このりのり
 あまき あねよのふんき
 唐乃玄宗の天寶十二年 あねよのふんき
 就一仲丸ハ唐乃大曆五年 平す 日本先仁
 天皇寶龜元年 あねよのふんき
 續日本書紀卅五云 光仁天皇寶龜十年 五月丙寅前
 學生阿倍仲麻呂 在唐而亡 家出偏 葬礼有 勅
 賜東絶 一百匹 白綿 三百屯 これ兼雅
 十年 いさ あねよのふんき

上卷下二

古今集乃注乃... 仲丸... 積水不可極安... 知滄海東九... 帆但信風... 羊人孤島中... 千年聖主臣... 風轉金裝照地新... 來朝歲...

古今集乃注乃... 王維... 神代... 照雅...

うらむくく二川の丘谷ヲダニりてかろくやぐるを
 ろくよめるおとあるやまをさうりてうらむを
 れいふれをさすれ何れいふれをさすれいふれ
 ろくよめるあらしもくくいふれいふれ素盞雄スサノヲの
 のほろいふれをさすれ梅田ウメノタ娘と伝多ツタとす
 八雲のやいふれをさすれ八雲のやいふれ
 はまのあまのやいふれをさすれ八雲のやいふれ
 うらむをさす神詠あまのやいふれ

古今羈旅

おをうらむくくあまのやいふれをさすれ八雲のやいふれ
 やまをさすいふれいふれいふれいふれいふれ
 けふまた今集まへて乃原ありけをさすれ

蒼海原アヲウナハラ

兼キ振放見フリサツミとあさうあまのやいふれをさすれ
 ある三笠乃山ミカサノヤマの月もと唐土カラキも仲丸ナカマルの
 入唐キヤウナラ去く久き長安の都トウすきうとくおを
 故國コク日本乃ニッポンノ山ヤマの月をさすれ唐
 土乃山ツチノヤマの月をさすれ唐土カラキも仲丸ナカマルの
 け明列乃海アカサガの月もと唐土カラキも仲丸ナカマルの
 出る月影をさすさちす尚ナカをさす

うきうき人し餘情りきりてきつめし
かりふいといきりてきりてきりてきりて
ころをいといきりてきりてきりてきりて
をいといきりてきりてきりてきりて
いといきりてきりてきりてきりて
おといきりてきりてきりてきりて
高きを男たまきりてきりてきりて
とい通事乃といきりてきりてきりて
乃の賓客のきりてきりてきりて
應劭が注よきりてきりてきりて
すきりて通事乃といきりてきりて

後撰爵族

後撰爵族
位の使りてきりて
都もいといきりて
伊勢をいといきりて

大鶴野といきりてきりてきりて
一人少卿二人をきりて
ころいといきりてきりてきりて
かむいといきりてきりてきりて
け一匹乃文きりてきりてきりて
ころいといきりてきりてきりて
ころいといきりてきりてきりて
け一匹全粹み仲九りきりてきりて
ころいといきりてきりてきりて
ころいといきりてきりてきりて

民部卿の家

ちのてすたひん
のいのちあが
らひすう月日哉

拾遺

あつらひ方... 長...

かきりけりせし... 紀氏のけま... 感謝あ

あつらひ方... 長...

この俗語... 鳥類黒色水...

おがらもろね... 皆人の日... おく...

西宮高八百五ノ
ハミヤサモロカコ
ニアニヤラオオキ
ツラモリ
此部ヲ思ヒテ三
三九二

船乃中に七百年乃ものま一はなとあひ合ふ道なり。
わがわたりゆきとくはつらきことづれたまれりあま
川あまよりわがづらりつれぬ ぬき車なる時さかちとらり
つれまされまるとづれたまれまると合ふてよを
し。五一きこひあつちるものを人よりき
ぬ一周年あまらよめとくひかめたり。きよなり
はく将をさ護るとぬくちとらりくといふれ白髪と素
波とく揚ちを清きも同くけく又梶取といけまよりま
さりをくといひつぐくぬぬき車のかいふらり
がよめとやうらりぬぬき車
北二月上徳石八乃とまよりこころをりをちひぬぬき車

以高源字類抄
童ウラベ
古事記云如此
歌而關明各良
散アラク 字鏡集
○世のさかち男の
己らハし先の物
らとをさむむら
こりか

ふやまこむと九けむりあまのしんをいふりて
あまぐあまふいふあなをくまはいふとゆき
しんをさくあやまいふをさくよめとゆき
いとよらぬき車異泊とかりぬぬき泊ちぬぬき
こららふと句を切ぬぬきぬぬきぬぬきと天衣
け童のしんよめとくぬ行岸後雪早月運と天衣
乃尺しゆぬぬきやあやまきとくぬぬき車に
惟言歌子ヤコトナクとめり言歌といふこととくぬぬき車に
つぎぬぬきぬぬきのぬぬきぬぬきぬぬきぬぬき
ぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬき
ぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬき
ぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬき
ぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬきぬぬき

松

○あらけの浪を
の敷せよと云
波の元故に破
雪より波の元
元やウニ元
海より元
元元元元
元元元元
元元元元
元元元元

山上の雲は白く
あふまきりく
あふまきりく

いせ物やうら
うらうらうら
うらうらうら

いしりもやう
海乃草も
海乃草も

をとり。ま
まままま
まままま

日本紀三云。到難波之崎。會有奔潮。
大急周以名爲浪速。因浪花。今謂難波。訛也。
難波といふは
まままま

後拾遺抄
はるき山は
ルまき山の
ぬまき山の
ぬまき山の
ぬまき山の

廿二日。日して
まままま
まままま

廿四日。ま
ままま
まままま

廿五日。ま
ままま
まままま

和名云。權師
如如止利
如如止利

廿六日。ま
ままま
まままま

てい

万葉集に
ついでに
ひし中に
むけて
ふと
ふじ

ことハハれぬまのちのり
めし人となし

祖神子にして和名云道祖

凡俗通云共工氏之子好遠遊故其死後以為祖和名

依倍乃如彖又云道神和名太無乃如彖

海河ありと旅海をいひのりなりぬ幣也

むりハきぬと云りくちりくると日本紀纂疏

云幣謂束帛也謂布帛絨之類也ハ紙のり

あはれハ乃より女の為 あまの あまの あまの

わりのあまののちのりあまの

をやまがあまののちのりあまの

ちのりハハるをもち神に袖中抄云ハハる

ハハるハハるハハるハハるハハるハハる

ハハるハハるハハるハハるハハるハハる

ハハるハハるハハるハハるハハるハハる

ハハるハハるハハるハハるハハるハハる

ハハるハハるハハるハハるハハるハハる

ハハるハハるハハるハハるハハるハハる

ハハるハハるハハるハハるハハるハハる

ハハるハハるハハるハハるハハるハハる

ハハるハハるハハるハハるハハるハハる

ハハるハハるハハるハハるハハるハハる

新撰の能光俊朝
あまのつらねの
おのを見えぬれば
まづぢしげぬ
たのあま
の春吟云物ぢよ
ろこふとまふ手
敷なごうつと
を船の帆手も
うのこせしやあ
帆のよこ年候
もおわつたは
たのひらりと
繩つらむとあり

かき本をんまのり〜
い中〜
あつたれ〜
いひたよめ〜

浪のつらねる老女〜
浪の巨子と同人を
いひたれ〜

物をよらふ〜
をうの〜
とて〜
とせして〜
一本のれ

天気を〜
といふ〜

○廿七日のせ〜

〜おぢ〜

可畏 カミウラ とよりの誰と〜
かうれさ〜

〜日ひをの〜
女の〜

〜日ひを〜
句詩〜

〜日ひを〜
〜

あまの雨〜
初八日〜
晋明帝又六

太平記音義十
九彈ツルギ
東鏡彈指ツルギ
梁書四十一
空中彈指

崇乃以父乃元帝。日と長安とハいつれ、ききん、こひ
久およ、日ハ近、長安ハき、この、も入れよ、元帝
こ、人をとひ、もハ、ツルギ奉同、則見日、不見長安、こ、こ
多ひ、し、心、と、ち、あ、ら、う、こ、こ、
ま、い、あ、ひ、と、ろ、よ、ち、ら、
く、く、せ、乃、こ、え、ね、お、ま、り、し、し、も、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、
く、ち、ち、り、ち、り、

う、う、も、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、
や、ま、ね、ハ、い、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、
日、ひ、と、ろ、よ、ち、ら、
お、ま、り、し、し、も、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、
お、ま、り、し、し、も、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、
お、ま、り、し、し、も、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、

七八月、よ、め、す、あ、み、お、ま、り、し、し、も、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、
あ、み、お、ま、り、し、し、も、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、
光九日、あ、み、お、ま、り、し、し、も、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、
月、二、日、う、ち、ら、つ、ら、と、
は、ち、お、ま、り、し、し、も、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、
ま、い、あ、ひ、と、ろ、よ、ち、ら、
子の日、お、ま、り、し、し、も、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、
よ、ろ、九、宣、う、ち、ら、つ、ら、と、
し、し、も、つ、れ、ら、も、ち、ら、つ、ら、と、

世に阿波國あり
とある人のことを
むくまをいひ
女といふは佐國王
佐郡は佐郡をい
し女のこのみはた
よあるなきし費
そのこ此國のち
なるかとおもへ
やりにありしと
うたよ
津島津島は佐國
依りて海は佐國
渾一見者

世事推之 蕙心 卸下和養 俗人属之 蕙指
上陽子白。倚松樹以摩腰習風霜之難犯也和菜
羹而啜口期氣味之克調也とのべて春日野ハ子日と
お西られハトウをうくよなり。古今集よのそののり
わらまつはば五代をいふ心に神さきき人 金器
華いねきり子日松いひりうらわさひん
みりうこれか

かくりつこまゆかきしりらとらりよふねをよせ
てこやげととひなれたとみもわらうらうらひき
じく土佐といひくととらりむらむら女いよねとやど
れアウラとがうらうらむらむらむらむらむらのあ
ハニ

かむいしおあまのりれとつひてよめりし
これハ紀氏土佐乃何國乃をわつとつとつとつと
ともあまのりしめとつとつとつとつとつとつとつとつと
ともりしつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
かきしつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
名いしひハ土佐海といふと土佐海ハ何處もつとつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
あつれとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
キイトよあしハ百葉しつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
二十日あめをせしつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
アとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
ナカ

養正

養正

其の雅
おとちやな
のいふやこは
れからいふは
おとちやな

なをらうる 兼中うたハサハヒンゲーとて 此の男
水門 神のけをいふらうる 此の男
おまをうらう 深渡をうらう 此の男
あめをうらすと 此の男とて 此の男
又はうらうと 此の男とて 此の男
魚のうらうと 此の男とて 此の男
とて 此の男とて 此の男
熱く 此の男とて 此の男
沿邊 此の男とて 此の男
た泊り 此の男とて 此の男
かくいふ 此の男とて 此の男

血宝鏡集
おとちやな
のいふやこは
れからいふは
おとちやな

これおののま
くうらうと 此の男とて 此の男
おまをうらう 深渡をうらう 此の男
あめをうらすと 此の男とて 此の男
又はうらうと 此の男とて 此の男
魚のうらうと 此の男とて 此の男
とて 此の男とて 此の男
熱く 此の男とて 此の男
沿邊 此の男とて 此の男
た泊り 此の男とて 此の男
かくいふ 此の男とて 此の男

二月朔日
朝の

黒寄佐
野と浦
乃東あり
今くらさ
きたふ松
系なり

たぢねれにづつしりあきさしりよるより
いぢねれにづつしりあきさしりよるより
二月朔日かたけはけしりよるより
まきくさくさなをまよひしりよるより
ろく松のつらにあきさしりよるより
ひのつらにす藤杉まきくさくさなをまよひしりよるより
黒崎の東ありしりよるより
まきくさくさなをまよひしりよるより
かきくさくさなをまよひしりよるより
俗子のあきさしりよるより

和名舟具云
津紋三言又挽
船繩也豆奈天

ますらうこびりあきさしりよるより
布あきさしりよるより
いぢねれにづつしりあきさしりよるより
よめらうイナシ
まきくさくさなをまよひしりよるより
波と海上乃境のくさくさなをまよひしりよるより
まきくさくさなをまよひしりよるより

本朝

心本朝楨師乃日をえたる... 頼愚乃... 船

くさぐさい雑乃字種... 女更く童ハ貝石... 貝

よす... 貝いかり... 貝

モリス... 今... 思...

ひろひ... のは... 親

玉あしどとありえんまじと人いそんや。されどと志り志る類志りに非類
 ようりきとつらやうとあつこめ書本死顔
志るにはより

彼女兒乃死し時乃顔黒者。臨終之時色

黒者地獄。赤白端正者行天上。と大論しける。

死顔ををみむらや

死顔ををみむらや

をんまよををみむらや

をひてををみむらや

あしとありえん

上句ハ和泉乃とふれハ夏乃納涼多。泉乃をひて
 一もどすまよををみむらや

黒瀬の国名ニシタ
 今ハナシヤシ
 今ハナシヤシ
 今ハナシヤシ
 今ハナシヤシ
 今ハナシヤシ

いづををみむらや
 上句ハ和泉乃とふれハ夏乃納涼多。泉乃をひて
 一もどすまよををみむらや
 死顔ををみむらや
 死顔ををみむらや
 死顔ををみむらや
 死顔ををみむらや
 死顔ををみむらや
 死顔ををみむらや
 死顔ををみむらや
 死顔ををみむらや

本津

生詞
無文ノ書ニ
ツチノキツ
鎌倉_の書
の_かこ_の事
ら_だも_あれ
なる_もあ
の子_とい
ふ

いさハ¹乃²の³さ⁴く⁵な⁶り⁷し⁸り⁹し¹⁰け¹¹る¹²助¹³字¹⁴なり
いり¹⁵ら¹⁶ふ¹⁷か¹⁸び¹⁹ま²⁰し²¹し²²あ²³わ²⁴ら²⁵し²⁶と²⁷い²⁸ふ²⁹か³⁰ら³¹い³²ふ
あ³³い³⁴こ³⁵い³⁶ん³⁷ あ³⁸き³⁹を⁴⁰用⁴¹る⁴²付⁴³合⁴⁴を⁴⁵あ⁴⁶わ⁴⁷け⁴⁸り
か⁴⁹さ⁵⁰ハ⁵¹凡⁵²乃⁵³流⁵⁴る⁵⁵か⁵⁶び⁵⁷ま⁵⁸し⁵⁹し⁶⁰を⁶¹い⁶²は⁶³り⁶⁴の⁶⁵ち⁶⁶り⁶⁷を⁶⁸
り⁶⁹の⁷⁰を⁷¹あ⁷²わ⁷³ら⁷⁴し⁷⁵し⁷⁶あ⁷⁷わ⁷⁸ら⁷⁹し⁸⁰ハ⁸¹益⁸²ハ⁸³い⁸⁴ふ⁸⁵
也⁸⁶凡⁸⁷乃⁸⁸流⁸⁹る⁹⁰に⁹¹い⁹²ら⁹³づ⁹⁴カ⁹⁵ら⁹⁶い⁹⁷は⁹⁸り⁹⁹の¹⁰⁰ち¹⁰¹り¹⁰²を¹⁰³益¹⁰⁴
乃¹⁰⁵白¹⁰⁶路¹⁰⁷の¹⁰⁸も¹⁰⁹し¹¹⁰し¹¹¹も¹¹²ん¹¹³の¹¹⁴い¹¹⁵に
と¹¹⁶い¹¹⁷く¹¹⁸や¹¹⁹あ¹²⁰い¹²¹し¹²²は¹²³り¹²⁴の¹²⁵ち¹²⁶り¹²⁷を¹²⁸乃¹²⁹ま¹³⁰り¹³¹
か¹³²ら¹³³い¹³⁴て¹³⁵も¹³⁶し¹³⁷し¹³⁸あ¹³⁹ら¹⁴⁰い¹⁴¹し¹⁴²は¹⁴³り¹⁴⁴の¹⁴⁵ち¹⁴⁶り¹⁴⁷を¹⁴⁸乃¹⁴⁹ま¹⁵⁰り¹⁵¹
も¹⁵²し¹⁵³し¹⁵⁴あ¹⁵⁵ら¹⁵⁶い¹⁵⁷し¹⁵⁸は¹⁵⁹り¹⁶⁰の¹⁶¹ち¹⁶²り¹⁶³を¹⁶⁴い¹⁶⁵ふ¹⁶⁶い¹⁶⁷ふ¹⁶⁸い¹⁶⁹
乃¹⁷⁰白¹⁷¹路¹⁷²の¹⁷³も¹⁷⁴し¹⁷⁵し¹⁷⁶も¹⁷⁷ん¹⁷⁸の¹⁷⁹い¹⁸⁰に 松¹⁸¹原¹⁸²

よめ¹
いま²し³ら⁴う⁵身⁶を⁷も⁸ま⁹り¹⁰ぬ¹¹す¹²の¹³い¹⁴乃¹⁵松¹⁶乃¹⁷り¹⁸は¹⁹ま²⁰
り²¹わ²²れ²³ハ²⁴も²⁵り²⁶

紀¹氏²の³い⁴ま⁵し⁶ら⁷う⁸身⁹を¹⁰も¹¹ま¹²り¹³ぬ¹⁴す¹⁵の¹⁶い¹⁷乃¹⁸松¹⁹乃²⁰り²¹は²²ま²³
り²⁴わ²⁵れ²⁶ハ²⁷も²⁸り²⁹ スミ³⁰ニ³¹エ
あ³²い³³ま³⁴し³⁵ら³⁶う³⁷今³⁸ま³⁹し⁴⁰ら⁴¹い⁴²ぬ⁴³ハ⁴⁴の⁴⁵ち⁴⁶り⁴⁷を⁴⁸乃⁴⁹ま⁵⁰り⁵¹わ⁵²れ⁵³ハ⁵⁴わ⁵⁵ッ
乃⁵⁶乃⁵⁷か⁵⁸を⁵⁹あ⁶⁰い⁶¹か⁶²つ⁶³し⁶⁴し⁶⁵紀⁶⁶氏⁶⁷ハ⁶⁸元⁶⁹永⁷⁰八⁷¹年⁷²甲⁷³辰⁷⁴に
生⁷⁵れ⁷⁶多⁷⁷う⁷⁸と⁷⁹や⁸⁰い⁸¹年⁸²あ⁸³十⁸⁴二⁸⁵歳⁸⁶死⁸⁷今⁸⁸序⁸⁹よ⁹⁰う⁹¹砂
何⁹²れ⁹³の⁹⁴ま⁹⁵り⁹⁶も⁹⁷あ⁹⁸い⁹⁹の¹⁰⁰ち¹⁰¹り¹⁰²を¹⁰³乃¹⁰⁴ま¹⁰⁵り¹⁰⁶わ¹⁰⁷れ¹⁰⁸ハ¹⁰⁹わ¹¹⁰ッ
何¹¹¹れ¹¹²も¹¹³も¹¹⁴久¹¹⁵き¹¹⁶或¹¹⁷は¹¹⁸何¹¹⁹れ¹²⁰の¹²¹娘¹²²松¹²³乃¹²⁴世¹²⁵ハ¹²⁶い¹²⁷ふ¹²⁸
く¹²⁹に¹³⁰い¹³¹じ¹³²う¹³³へ¹³⁴い¹³⁵し¹³⁶れ¹³⁷し¹³⁸し¹³⁹ひ¹⁴⁰ら¹⁴¹い¹⁴²し¹⁴³ハ¹⁴⁴わ¹⁴⁵れ¹⁴⁶ぬ
わ¹⁴⁷い¹⁴⁸ら¹⁴⁹う¹⁵⁰ 爲¹⁵¹す¹⁵² 何¹⁵³れ¹⁵⁴も¹⁵⁵す¹⁵⁶し¹⁵⁷う¹⁵⁸つ¹⁵⁹く¹⁶⁰乃¹⁶¹う¹⁶²

付¹合²

ウツクハニ...

むーく人々... 今集りしとよき
す... わかれ
や...

三九... 今集りしとよき
世より... 今集りしとよき
も... 今集りしとよき
き... 今集りしとよき
く... 今集りしとよき
と... 今集りしとよき
く...

世... 長目... 物... 同... 危殆... 同... 後... 殆...

は... 今集りしとよき
れ... 今集りしとよき
て... 今集りしとよき
あ... 今集りしとよき
ゆ... 今集りしとよき
や... 今集りしとよき
乃... 今集りしとよき
あ... 今集りしとよき
わ... 今集りしとよき

舟... 日... テ... リ... カ... テ... 心...

真闇云明神ハ
アキツ神アヲ三神
凡ヨミテ顕神ト
書ニ同シ今顯三
オハシメ天皇ヲ甲
奉ル神ヲ明
神ト云テ延喜
式ノヨロニ六十三
百ノノ明神ヲ
アヤシテ知シ
ノ尊皇云明神
ト云フ嘉祥
頃既ニアリト三
エテ續日本後
紀六ノ明神
神又伊勢命
神預明神ト
ドアリ明神ト
ヤツ云ケル
皇漢書ニ三

いづともうなるはくこみすしての明神いれいのうさ
右元

かきしよりのがらもくんとはいちやうくともあう
右元

○皇國云例ノ神トハイナホキキヤク依凡ノ波風ヲコトシテ
れいのうさハ神ト例トあまみヤク依凡ノ波風ヲコトシテ

いともくはくお波丸ともまとも又靈のまれ心と
右元

雷踏あゝ神まれいませ帯きまひくおべんてんてん

いよめくともいふ神魚りりりもあうあうんてんてん

くいとりくいんやアアあゆめくともいふあうくあゆめ

いやアアアアアアア。任吉明神ハ伊勢諸もまれ

まひく日向乃小戸の檣志穂原もく後（せき）を

くまんおとくもくもく海底トあうわれまひくは神

也。日本紀云底筒男命。中筒男命。表筒男命。是即

任吉大神。夫纂疏曰。任吉三神。而禰列。曰。坐則祀神功

皇后之靈矣。任吉之名。者神功皇后時。此神言曰。真任

吉之國也。因鎮坐其地。名曰任吉。之社家。一曰任吉

四所トトす。才一天照太神。才二宇佐明神。田身如命。

才三表筒中筒底筒男命。才四神功皇后也。とらり。

續古今集。奇。あうくあうくあうくあうくあうくあうく

とらあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

海底あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

まねをさうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

こいんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

あうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうくあうく

五骨
さよこえぬ
つり

あやこわうし一舟乃りちやせしこらへちまの骨

やうつらぬる一氣にはたすかすか

わかれもあつちのいへれしはちかへんやこらりり

きやうしんからんきへあやまうしひおのりせり

とれしへ
めあやあつちのいへ

いぢいぢい。まへ進つて一軍をよるいびか

まへまへいひ乃り乃り乃りあをあましすおをわの

かまらづむさうま
一幸川乃りり地乃
海乃のれの内海をちのまへへやうしん

あつちのいへれしはちかへんやこらりり

あつちのいへれしはちかへんやこらりり

あつちのいへれしはちかへんやこらりり

かへ地へ

いれいおまひをすれいようしちかへん

乃あつちのいへれしはちかへん

いれいおまひをすれいようしちかへん

いれいおまひをすれいようしちかへん

いれいおまひをすれいようしちかへん

いれいおまひをすれいようしちかへん

いれいおまひをすれいようしちかへん

いれいおまひをすれいようしちかへん

いれいおまひをすれいようしちかへん

いれいおまひをすれいようしちかへん

いれいおまひをすれいようしちかへん

おまひをすれいようしちかへん
いれいおまひをすれいようしちかへん
いれいおまひをすれいようしちかへん
いれいおまひをすれいようしちかへん
いれいおまひをすれいようしちかへん

おまひをすれいようしちかへん
いれいおまひをすれいようしちかへん
いれいおまひをすれいようしちかへん
いれいおまひをすれいようしちかへん
いれいおまひをすれいようしちかへん

観喜増益善根也。謂齊月齊日者。受持八女戒故名。

○九月、ころもとあきしりちあぬ。

あぬのゆきやうくくくくくくくくくくくく

わくあぬをいさつこのつれども川乃あさるわいぬ

贖の所イ為和田魚

れ乃ともまるといよとあぬをまがくくく

こまひ川、あき辛米多るとを贈川、一本和田の漁の贖の本

わくあぬに屋舟ぐくとあぬあぬ。あぐれ乃雨とハ

るりくくゆき別ちまこまま一本贖乃雨とハ

あつれあつれ恒名乃似くをえすあひくくくく

かくくあや。米魚をどけくくくくくくくくく

こあひ川とよさつひやア要事なをいこまよとよ

こまひ川贈川とよとあやこまよ

かくくあぬいさつこのつれどもあきとさるわんとよとあ

をえつゆくと院わくをいさつひやアをいさつ

あきあつりくくくくくくくくくくくくくく

の本ども何の中乃庭ハ梅花さくり

渚の院河内乃玉也。半枚方とよあ乃あやり

こまひ川とよとあきとさるわんとよとあ

こまひ川とよとあきとさるわんとよとあ

こまひ川とよとあきとさるわんとよとあ

こまひ川とよとあきとさるわんとよとあ

あつりせハ古今イ也為

よりのことありきなり

故ニルカ惟高乃親王シニ文徳才一皇子女ニ紀静子シニ各鹿母故乃字一

とせ一人の身をりてくくさくを原の葉年

元慶元年正月十五日は左近中将伊勢物語云む

これよりこととすことありてくくさくの中は

うちのこをせむりてくくさくありてく

ふもの標乃花さくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

未

先きうられお花にいりくんと結ぶありをわたり
ゆれいさうあくわくくくくくくくくくくく
やういりくくくくくくくくくくくくくく
名跡をきくくくくくくくくくくくくくく
乃始くくくくくくくくくくくくくくくく
は眞マコトあるいことコトありてくくくくくくく
ありいありいありいありいありいありい
ちよくくくくくくくくくくくくくくくくく
わくくくくくくく

これきりありきりありきりありきりあり
をよらりきりありきりありきりありきり

十一

好てふらる

もあら

まをふ

かきつるもあまうつく人乃乎子をあまうつく
 しづかきもあまうつく人乃乎子をあまうつく
 家内へおのれはむらびと彼を愛をせむに
 ちしむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと

とし。毛詩序云詩者志之所之在心為志發言為詩情動於
 中而形於言言不足故嗷歎嗷歎之不足故詠歌之
 由今序云やむらうの心はむらうの心はむらうの心はむらうの心は
 けりしはむらびと彼を愛をせむに
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと
 しむこををせむてけりしはむらびと

東

横折

考

新拾遺 齋藤
家持
張人のよし
あまの山にて
月まはるる
りしつらん

とらふりしるふとふれをききて人いひけり
とらふりしるふとふれをききて人いひけり

山乃よこむれと山乃くもら乃よこむれと
ありあせの佐和の中山とつやあがり。定家公僻業
所しを日記乃詞をひきき。在令乃撰者山乃
よこむれをいふとくもら乃よこむれとつや
にのよこむれとつやあがり。八幡宮の應神天皇之
神乃肥後國葦形乃池のりりふかりくを神託
しつらん。豊前國宇佐宮うらうらうら
まらこれ欽明天皇乃法時。は清和天皇乃所
字らん。大和國大安寺乃信行教。山城國男山よこむれ

三代実録 三皇觀
八羊勅山城國乙
訓郡相應寺者元
是漁商比度之
如也

しつらん。奉同せし。すまら清和天皇乃
社をしつらん。本朝二所宗廟とす。伊勢
大神宮とい八幡宮とせり。法託宣し
我是人皇第十六代天言田八幡也と傳。故よ八幡と
しつらん。略し

山乃きりしるふとふれをききて人いひけり
一本
拾枝大橋郡云山乃今大湫乃極教正統式しるふ
相應寺乃りりしるふとふれをききて人いひけり
しるふとふれをききて人いひけり
おわりしるふとふれをききて人いひけり
しるふとふれをききて人いひけり

一とせはなげふり月いせぬさうり川の春月乃ありきや
 わさひとせぐらういさけ川飛鳥おとく川おとくねい
 うちせはなげふりさかえりといひさあひとれ
 よめさうり少書幸河さうり川あさあひねい

ありつら大和名あし剛城さうりぬさうりい
 うよさうり世乃中いけねあさあさうり川のよ
 うちさうりいせいあさうり川あちいせあさ
 ありいといさひさめえん人いさね在集のさ
桂
 えがら月うかひさうり川さこあさうりげと
 わりさかえり

心明し。在集りいせせせすさうりさうり時七糸屋へ

しちあわねさうりいさうりあさうりかひさうり里なれ
 さひりなをのさうりいさうりあ在今

うちあひいせぬれ
 ありさうりいさうりあさうり川せをひさうりもわさ
 ありさうり

あまやいさうりあさうりいさうん花こもい土佐よさうり程
 ありさうりいさうりいさうりいさうりいさうりいさうりい
 さうりいさうりいさうりいさうりいさうりい
 さうりいさうりいさうりいさうりい
 又ありいさうりい子た

ありさうりいさうりいさうりいさうりい
 ありさうりい
ありさうりいさうりい

かつぶの巻...
 貫之の年比す...
 富小治の事...
 乃家...
 人をあづけ...

くありし...
 あつ...
 長明...
 貫之...
 富小治...
 乃家...
 人をあづけ...

陸奥
 山形
 秋田
 岩手
 宮城
 福島
 茨城
 栃木
 群馬
 埼玉
 千葉
 東京
 神奈川
 新潟
 富山
 石川
 福井
 山梨
 長野
 岐阜
 愛知
 三重
 滋賀
 京都
 大阪
 和歌山
 奈良
 徳島
 香川
 愛媛
 高松
 高知
 佐賀
 福岡
 熊本
 大分
 宮崎
 鹿児島
 沖縄


見しひたすのちとせりてすのぼとくは
 きわめせりや ぬきやとく人をこ
 む一人の亡見をうくるや 彼をんまの松の少年
 くるみきりうらぐく人ねく見とくはうらけ別
 こせきん物をとくぬきやとく人をこ
 了とせらばも 京極黄門の紀成乃弟松乃神をう
 せんとくうつとくねまの幸り。みしひた
 とくねるあつとくはつとく物きんし
 け月記乃うの仲九葉をのれ在あはらとり 童謡
 うの乃おたり 又十六首竹の中よけ女児乃 表傷
 九首乃けり。ま 愁歎おひく進傳りき

や
 中
 口
 ぬ
 ぬ
 や
 ぬ

わとれがうとくちらぬきこと地がねがえはくさ
 とすれがぬすれとくわすんぬきやとく人をこ
 巻とあれ角とわれとく破れんとく人うえ
 ゆべき物とくとの誦退乃銅とくはくしぬき
 幸とく遣てん乃さうくすくぬき
 くるいんくことくにおをえんぬきやとく人をこ
 紀乃川がれとくをさぬき

百済四年二月十六日

拾穂軒李吟

一
 三


寛文元年八月吉日

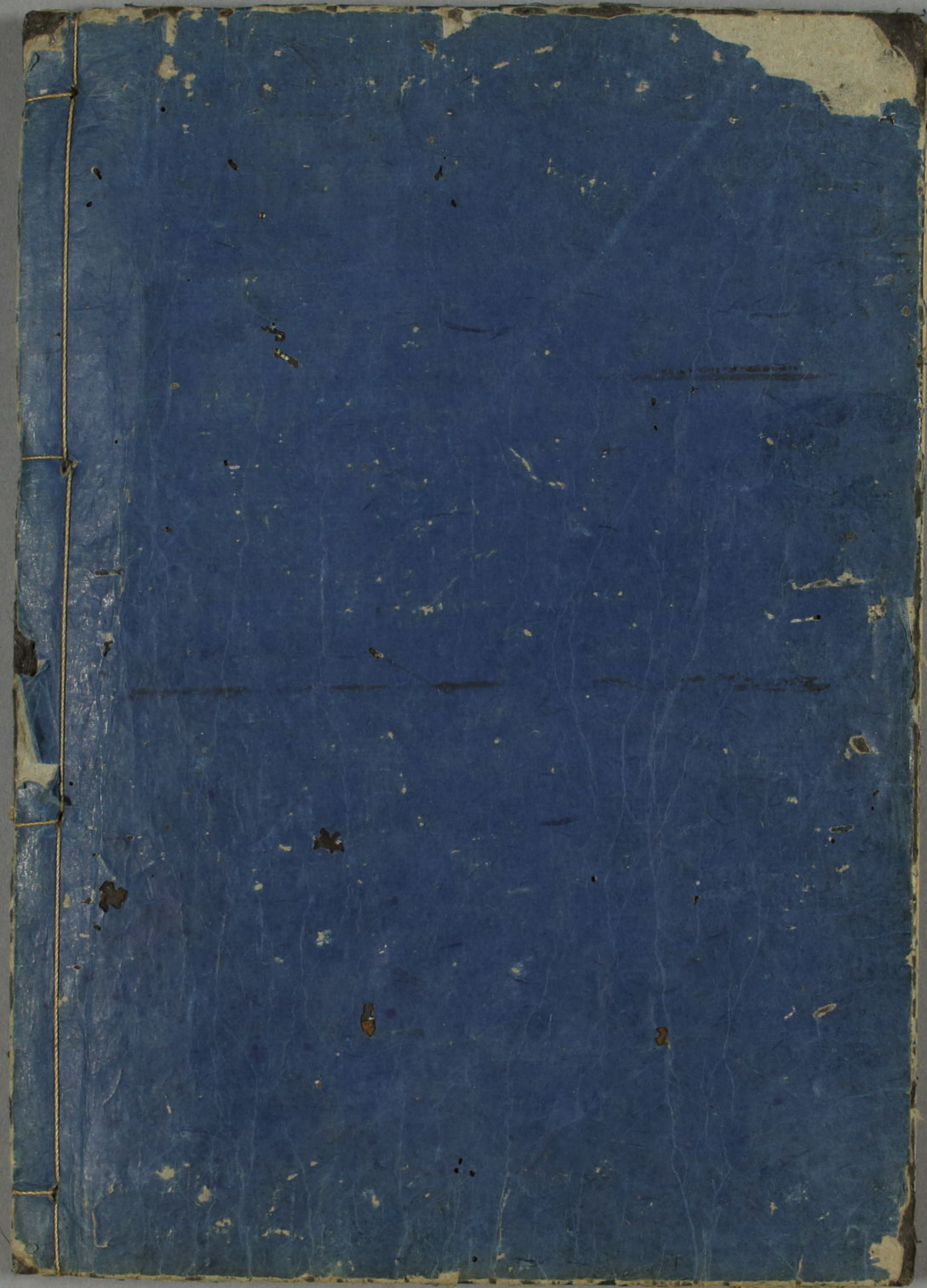
御書物屋

出雲寺和泉掾

元亨少野小丸周門

Handwritten marks at the bottom left of the left page.

Small handwritten mark at the bottom center of the left page.



梅花乾地
与不老五
百年来一
楊壽

三
玉
院
殿
苑
定
梅
花
記

